

事業所における自己評価表 保育所等訪問支援ソルブ

令和7年3月21日

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など |
|----------|----|--|----|-----|--|
| 体制・環境整備 | 1 | 訪問支援に使用する教具教材は適切であるか。 | ○ | | 児童の特性に合わせたアセスメントシートやツールを活用し、支援に活かすことができた。誰でも短時間で簡単に使えるシンプルなツールを制作していきたい。 |
| | 2 | 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。 | | ○ | 関係機関からのご紹介での問い合わせを多くいただき、随時相談支援を行った。新規利用の受け入れが円滑できるよう、配置を増やしていきたい。 |
| 業務改善 | 3 | 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。 | ○ | | 開所 1 年目のため、無理のない目標を立てて、定期的に意見交換を行った。1 年目の反省を活かして、2 年目につなげていきたい。 |
| | 4 | 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | | ○ | これから業務改善につなげていきたい。 |
| | 5 | 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | | ○ | これから業務改善につなげていきたい。 |
| | 6 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | | ○ | これから業務改善につなげていきたい。 |
| | 7 | 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | ○ | | オンラインも活用し、必要な研修に参加した。人員配置の兼ね合いで参加できなかった研修があったので、今後も優先順位を検討しながら参加していきたい。 |
| 適切な支援の提供 | 8 | 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。 | ○ | | 日頃からお子さんを中心に関係者間で意見交換を重ねることで、お子さん自身の考えが深まり、よりの確なニーズを把握した上で計画書を作成することができた。その結果、最善の利益を考慮した進路支援などに活かすことができた。 |
| | 9 | 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。 | ○ | | 関係者間で話し合い、こどもの最善の利益を考慮しながら、多角的な視点で計画を立て、適切な支援に繋げられるよう配慮した。今後も複数人の視点を大切に、合意形成を図りながら検討していきたい。 |
| | 10 | 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。 | ○ | | 訪問先の先生方から適宜アドバイスをいただき、ご意向を反映させながら計画を作成することができた。お子さんが悩んだり迷ったりしたときにも、計画書が見通しのひとつになり、安心して集団生活を送ることができていた。 |
| | 11 | 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | ○ | | 計画に沿ってアセスメントと支援を行ってきたことで、お子さんが目標を達成し、意欲的に次のステップへと自ら向かっていく姿がみられた。今後も、お子さんの望む暮らし実現に役立つような計画を立てて、職員間で共通認識をもち支援し |
| | 12 | こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | ○ | | 福祉で活用するアセスメントツールだけでなく、教育機関で活用されているアセスメントツールも参考にした。応用行動分析を活用することが多かった。 |
| | 13 | 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。 | ○ | | ガイドラインを指針とし、何度も読み返ししながら支援に反映できるよう努めた。また、ガイドラインの意図を適切に理解するために、解説書も活用した。 |
| | 14 | 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。 | ○ | | 1 1 と同じ |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | | ○ | 人員配置の都合で毎日打ち合わせはできていないが、記録を行い、定期的に対面で実施した。 |

| | | | | |
|--|----|--|---|---|
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | ○ | 人員配置の都合で毎日打ち合わせはできていないが、定期的 に実施した。気づいた点や振り返りなどは、記録に残してい る。 |
| | 17 | 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を 尊重して支援を行っているか。 | ○ | 担任の先生が密に情報共有してくださり、校長先生、教頭先 生も入って打ち合わせ等に参加してくださり、適宜訪問先の ご意向を伺いながら訪問に入ることができた。 |
| | 18 | 毎回の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・ 改善につなげているか。 | ○ | 記録を活用しながらPDCAサイクルで支援を行い、お子さん が安心できるペースで活動の幅を広げられるように支援を行 った。不安や体調不良が出やすいタイミングも、記録を活用 し、できる限り事前に予測して支援を行った。 |
| | 19 | 定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い 、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な 見直しを行っているか。 | ○ | 日頃から保護者や訪問先の先生方とのコミュニケーションが とりやすい環境だったため、適宜意向を把握し、計画の見直 しや必要性を確認することができた。 |
| 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との 会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画してい るか。 | ○ | 参画している。今後、事業所の人員が増えた際には、児発管 が人材育成を行い、現場担当者が外部との連携時にも専門的 なやりとりができるよう努めていきたい。 |
| | 21 | 地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して 支援を行う体制を整えているか。 | ○ | 障害児通所支援事業所連絡会や不登校支援団体連絡会にお誘 いいただき、参加する機会をもつことができた。また、教育 支援室、基幹相談支援センターや障がい者相談支援センター 、発達障がい地域支援マネージャーからもアドバイスを受ける 機会をいただき、大変貴重なお話ができた。参加できる回 数に限りがあったため、今後は人員配置を整え、外部との連 携により多くの時間を確保し、チーム支援を強化して支援の 効果を高めていけるようにしたい。不登校親の会、フリース クールや居場所支援、学習支援の先生方との繋がりもできた |
| | 22 | 就園・就学時の移行の際には、保育所等や学校との間で、支 援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。 | ○ | お子さんのケースはこれからだが、保護者を関係機関へつな ぐ際には、まず保護者の意向を伺い、情報共有シートを作成 したうえで確認いただき、同意を得てから情報共有を行った 。 |
| | 23 | 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言 を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。 | ○ | 21と同じ。 |
| | 24 | (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等 へ積極的に参加しているか。 | ○ | 参加できる機会が少ないので、参加できるようにしていきたい。 |
| | 25 | 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達 の状況や課題について共通理解を持っているか。 | ○ | 面談や公式LINE、記録などを活用し、保護者が知りたいこと を中心に情報共有を行った。また、保護者の関心や悩みに寄 り添いながら、必要に応じてアドバイスをを行い、こどもの発 達状況や課題について共通理解を深められるよう努めた。 |
| | 26 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援 プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加で きる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | ○ | 当事業所では実施していないが、関係機関が開催するサロン や研修の情報を適宜提供した。 |
| | 27 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか 。 | ○ | 受給者証や料金についての質問が多いので、特に丁寧に説明 するようにしている。 |
| | 28 | 訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について 適切に説明を行っているか。 | ○ | 打ち合わせのお時間をいただき、事業の趣旨や訪問支援の目 的について説明を行った。パンフレットだけでは具体的な内 容が伝わりにくいところのご意見もあるため、こども家庭庁から 出されている「保育所等訪問支援ガイドライン」もご紹介し ていきたいと考えている。(ネットから確認できる) |
| | 29 | 保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の 意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえ て、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。 | ○ | 対面で意向を確認する機会を定期的に設けている。 |

| | | | | | |
|------------|----|--|---|--|---|
| 保護者等への説明等 | 30 | 「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。 | ○ | | 対面でご説明し、同意を得ている。 |
| | 31 | 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | ○ | | 毎月行っている。公式LINEがあるため、面談日以外のご相談も随時可能。状況によって返信に時間がかかるため、人員配置を改善させていきたい。 |
| | 32 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。 | ○ | | 契約者が少ないため当事業所では設けていないが、親の会や居場所支援の先生方と繋がっているため、適宜情報提供をしている。 |
| | 33 | こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | ○ | | 体制の整備に努めていますが、対応にお時間をいただくことがある。今後、より迅速かつ適切に対応できるよう改善していきたいと考えている。 |
| | 34 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | ○ | | SNSで発信を続けてきたが、年度の後半から多忙で更新できなくなってしまった。HPが制作途中なので、改善していきたい。 |
| | 35 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | ○ | | 個人情報は鍵付きの場所に保管しているだけでなく、支援に必要な個人情報以外は基本的に収集しないようにしており、取り扱いには十分留意している。 |
| | 36 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | ○ | | 場面緘黙のお子さんには、ジェスチャーや目線、選択肢提示、ICT等を活用させていただいた。支援員はPECSを活用してきた経験があるため、発語がないお子さんとのコミュニケーションは、具体物や絵カード等の視覚支援も活用していきたい。 |
| 訪問先施設への説明等 | 37 | 訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。 | ○ | | 適宜対面やICTを活用して報連相、支援を行った。先生方に多く助けていただき、一緒に支援を進めたことで、お子さんの行動に大きな変化が見られた。 |
| | 38 | 保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。 | ○ | | 対面やICTなど状況に応じた手段を活用し、時間を割かずに行える方法を工夫し、訪問先施設の負担にならないよう配慮した。振り返りを通じて支援の質を高め、次の訪問に活かせるよう努めた。 |
| | 39 | 保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。 | ○ | | 面談や連絡ツールを活用し、内容はわかりやすく伝えられるよう工夫した。必要に応じてアドバイスをを行い、保護者が安心してこどもの成長を見守れるよう努めた。 |
| | 40 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | ○ | | 40と同じ。 記録は、匿名化している。 |
| | 41 | 訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。 | ○ | | 教えていただくことが多く、協力して支援を進めている。信頼関係を築き、教育と福祉で連携しながら支援を行うことで、お子さんの今の生活の充実だけでなく、将来の選択肢の幅が広がる結果に繋がった。 |
| 非常時等 | 42 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | ○ | | 訪問先での現場が中心となるため、緊急時には訪問先の責任者の指示に従い、速やかに対応できるようにしている。 |
| | 43 | 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。 | ○ | | お子さんや保護者が訪れることはあまりないが、事務所のあるラトプの管理センターからラトプの設備について教わり、裏通路などの場所を一通り確認するなどした。 |
| | 44 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | ○ | | ヒヤリハットが発生した場合には、速やかに事業所内で情報を共有し、再発防止のための方策を検討するようにしている。結果を職員間で共有し、支援環境の改善に役立てていきたい。 |

| | | | | |
|-------------|----|--|---|--|
| の 対 応 | 45 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | ○ | 今後も定期的に研修の機会を設け、こどもの権利を守ることの重要性について取り上げ、こども一人ひとりの尊厳を尊重した支援ができるように意識を高めていきたい。また、職員が主観ではなく、正しい判断ができるよう、日々他者の意見をよく聴くことや、学ぶ機会を大切にしていきたい。 |
| | 46 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。 | ○ | 今年度身体拘束を検討する場面はなかったが、組織として基準を定め、こどもや保護者に事前に説明し、理解と同意を得た上で対応するようにしている。こどもの最善の利益を最優先に考え、必要最小限の対応を行う。 |